アスファルト混合物配合設計報告書

混合物：　　再生粗粒度アスコン（２０）

２０２４年　４月

倉吉アスコン株式会社

アスファルト混合物配合設計総括表

報告年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）

報　告　者　田子三由生

１．使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産　地	材　質
５号砕石	坂田砕石工業㈱	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
６号砕石	坂田砕石工業㈱	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
７号砕石	坂田砕石工業㈱	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
砕砂	坂田砕石工業㈱	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
再生骨材　１３－０	倉吉アスコン	倉吉市馬場町	ｱｽﾌｧﾙﾄｶﾞﾗ
ストレートアスファルト　８０～１００	ＥＮＥＯＳ㈱	岡山県倉敷市水島	ストアス８０～１００
ＲＪ－１	三徳アスリード㈱		再生用添加剤

２．使用骨材の配合割合

材 料	５号砕石	６号砕石	７号砕石	砕砂	再生骨材 １３－０						計
配合割合％	２０．２	１２．９	２．８	４．１	６０．０						１００．０

３．合成粒度

ふ る い 目		53 ㎜	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600 ㎛	300	150	75
通過質量百分率％					100.0	99.0	80.0		47.5	30.0		21.5	14.5	7.5	5.6
粒 度 範 囲	上 限				100	100	90		55	35		23	16	12	7
	下 限				100	95	70		35	20		11	5	4	2

４．設計アスファルト量の決定

試 験 項 目		最適ＡＳ量（％）	密 度（g／cm³）	理論密度（g／cm³）	空 隙 率（％）	飽 和 度（％）	安 定 度（kN）	フ ロ ー（$\frac{1}{100}$ cm）	残留安定度（％）
試 験 値		5.1	2.406	2.504	3.9	75.0	9.13	34	90.0
基 準 値	上 限	―――	―――	―――	7	85	―――	40	―――
	下 限	―――	―――	―――	3	65	4.90以上	20	75.0以上

※　マーシャル試験の結果はグラフより求めた値である

骨 材 試 験 成 績 表

目　的　配 合 設 計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

ふるい分け試験

	ふるい目の開き	5号砕石	6号砕石	7号砕石	砕砂	再生骨材 13－0				
通過質量百分率％	５３　ｍｍ									
	３７．５									
	３１．５									
	２６．５	100.0								
	１９	95.2	100.0			100.0				
	１３．２	5.5	96.5	100.0		99.3				
	９．５									
	４．７５	0.5	6.7	97.2	100.0	66.1				
	２．３６		1.2	11.1	93.5	42.8				
	１．１８									
	６００　μｍ			1.1	32.8	33.7				
	３００				17.2	23.0				
	１５０				10.1	11.9				
	７５				6.0	9.0				

性状試験

試験項目		5号砕石	6号砕石	7号砕石	砕砂	再生骨材 13－0				
密度	表乾	2.687	2.674	2.654	2.661	—				
	かさ	2.668	2.649	2.615	2.627	—				
	見掛	2.720	2.718	2.721	2.723	—				
吸水率／水分量％		0.72	0.95	1.48	1.30	—				
すりへり減量％		—	12.3	—	—	—				
安定性％		1.1	1.4	1.5	2.7	—				
微粒分量試験％		—	—	—	—	1.2				
軟石含有量％		0.4	0.5	—	—	—				
偏平細長石片％		1.6	2.4	—	—	—				
単位容積質量		1.581	1.558	1.497	1.689	—				
粘土塊量％		0.01	0.02	—	—	—				
最大密度		—	—	—	—	2.511				
旧Ａｓ含有量％		—	—	—	—	4.87				
旧Ａｓ針入度		—	—	—	—	—				
圧裂係数		—	—	—	—	1.10				

骨材粒度設計（修正後）

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試験者　田子三由生

３．使用予定骨材の合成粒度　修正後

骨材		5号砕石	6号砕石	7号砕石	砕砂	再生骨材 13－0				
配合率Ａ％		20.2	12.9	2.8	4.1	60.0				
通過質量百分率Ｂ％	53 mm									
	37.5									
	31.5									
	26.5	100.0								
	19	95.2	100.0			100.0				
	13.2	5.5	96.5	100.0		99.3				
	9.5									
	4.75	0.5	6.7	97.2	100.0	66.1				
	2.36		1.2	11.1	93.5	42.8				
	1.18									
	600 μm			1.1	32.8	33.7				
	300				17.2	23.0				
	150				10.1	11.9				
	75				6.0	9.0				

各骨材のふるい目の大きさ別配合率（Ａ）×（Ｂ）									合成
53 mm									
37.5									
31.5									
26.5	20.2								100.0
19	19.2	12.9			60.0				99.0
13.2	1.1	12.4	2.8		59.6				80.0
9.5									
4.75	0.1	0.9	2.7	4.1	39.7				47.5
2.36		0.2	0.3	3.8	25.7				30.0
1.18									
600 μm			0.0	1.3	20.2				21.5
300				0.7	13.8				14.5
150				0.4	7.1				7.5
75				0.2	5.4				5.6

４．骨材の密度による配合率の補正

骨材									計
①　配合率									
②　密度									
③ ＝ ① × ②									
補正配合率 ③／計×１００									

骨 材 の 粒 径 加 積 曲 線 図

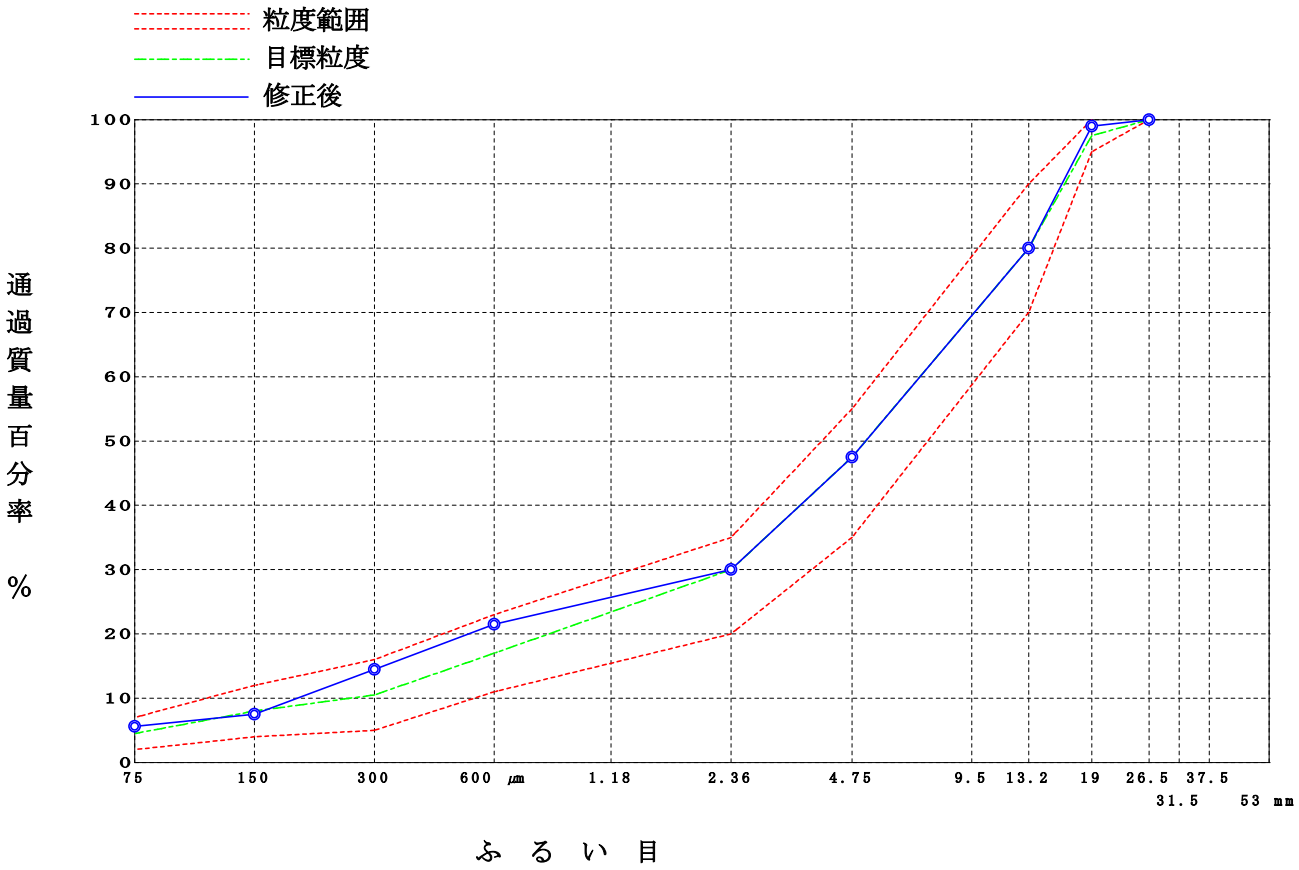
目　　的　　配　合　設　計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

５．合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
５３　ｍｍ				
３７．５				
３１．５				
２６．５	１００．０	１００．０	１００．０	１００
１９	９９．０	９９．０	９７．５	９５　～　１００
１３．２	７９．６	８０．０	８０．０	７０　～　９０
９．５				
４．７５	５０．７	４７．５	４７．５	３５　～　５５
２．３６	２９．２	３０．０	３０．０	２０　～　３５
１．１８				
６００　μｍ	１２．５	２１．５	１７．０	１１　～　２３
３００	７．３	１４．５	１０．５	５　～　１６
１５０	４．０	７．５	８．０	４　～　１２
７５	２．７	５．６	４．５	２　～　７

６．粒径加積曲線図



設計圧裂係数への調整（添加剤量）

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

試験項目 ＼ 材料名		再生骨材 １３－０				規格値
通過質量百分率％	５３　ｍｍ					
	３７．５					
	３１．５					
	２６．５					
	１９	１００．０				
	１３．２	９９．３				
	９．５					
	４．７５	６６．１				
	２．３６	４２．８				
	１．１８					
	６００　μｍ	３３．７				
	３００	２３．０				
	１５０	１１．９				
	７５	９．０				
旧アスファルト含有率　％		４．８７				３．８以上
圧裂係数　ＭＰａ/ｍｍ		１．１０				１．７０以下
微粒分量試験による損失量　％		１．２				５以下
最大密度		２．５１１				

再生添加剤の性状

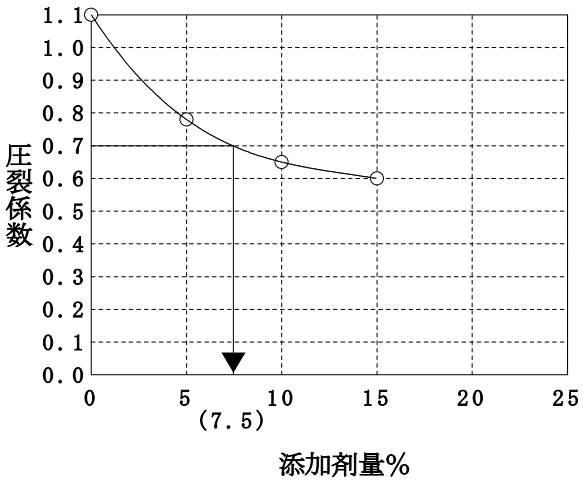
項　目	試　験　値	標準的性状
動　粘　度　（６０℃）mm²/s	８２．１	８０～１０００
引　火　点　℃	２６８	２５０以上
薄膜加熱後の粘度比　（６０℃）	１．０７	２以下
薄膜加熱質量変化率％	－０．６８	±３％以内
密　度　（１５℃）g/cm³	０．９２５	

＜添加剤量と圧裂係数の関係＞

添加剤量	０．０	５．０	１０．０	１５．０
圧裂係数	１．１０	０．７８	０．６５	０．６０

設計圧裂係数	０．７０	（規格値０．６０ ～ ０．８０）

設計圧裂係数への調整



＜設計圧裂係数への調整結果＞

設計添加剤量	７．５
設計添加剤量（対混合物）	０．２７

理論最大密度計算表

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試験者　田子三由生

骨材の種類	A 骨材のみ	B（旧アスファルト含む）
５号砕石	２０．２	２０．２０
６号砕石	１２．９	１２．９０
７号砕石	２．８	２．８０
砕砂	４．１	４．１０
再生骨材　１３－０	６０．０	
計	１００．０	１０３．０７
設計針入度　1/10mm		
旧アスファルト量　（外割%）		３．０７
再生用添加剤量（対アスファルト量）　%		７．５０
再生用添加剤量（対再生混合物）　（外割%）		０．２７

再生アスファルト量（%）	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0			5.1
再生アスファルト量（外割%）	4.17	4.71	5.26	5.82	6.38			5.37
旧アスファルト量（外割%）	3.07	3.07	3.07	3.07	3.07			3.07
再生用添加剤量（外割%）	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27			0.27
新アスファルト量（外割%）	0.83	1.37	1.92	2.48	3.04			2.03

理論最大密度計算表

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試験者　田子三由生

①	②	③			④	⑤
骨材の種類	配合率（％）	骨材の密度（g/cm³）			計算に用いる密度	②／④
		表乾	かさ	見掛		
5号砕石	２０．２０	２．６８７	２．６６８	２．７２０	２．７２０	７．４２６
6号砕石	１２．９０	２．６７４	２．６４９	２．７１８	２．７１８	４．７４６
7号砕石	２．８０	２．６５４	２．６１５	２．７２１	２．７２１	１．０２９
砕砂	４．１０	２．６６１	２．６２７	２．７２３	２．７２３	１．５０６
再生骨材　１３－０					２．７４０	
ＲＪ－１	０．２７				０．９２５	０．２９２
Σ②＝	４０．２７				Σ⑤＝	４０．１１６

⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
アスファルト量（％）	アスファルトの密度	⑥／⑦	Σ⑤	⑧＋⑨	理論最大密度（Σ②＋⑥）／⑩
０．８３	１．０３３	０．８０３	４０．１１６	４０．９１９	２．５４６
１．３７		１．３２６	４０．１１６	４１．４４２	２．５２７
１．９２		１．８５９	４０．１１６	４１．９７５	２．５０８
２．４８		２．４０１	４０．１１６	４２．５１７	２．４８９
３．０４		２．９４３	４０．１１６	４３．０５９	２．４７１
２．０３		１．９６５	４０．１１６	４２．０８１	２．５０４

マ　ー　シ　ャ　ル　安　定　度　試　験

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試験者　田子三由生

アスファルトの種類 再生アスファルト　アスファルトの密度（A） １．０４０　アスファルトの温度 １６０ ℃　骨材の温度 ２００ ℃

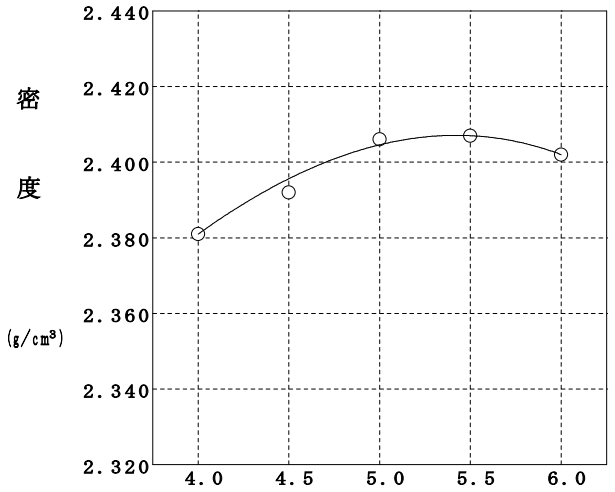
突固め温度 １４０ ℃　突固め回数 ５０ 回　力計の係数（B） ０．１４２

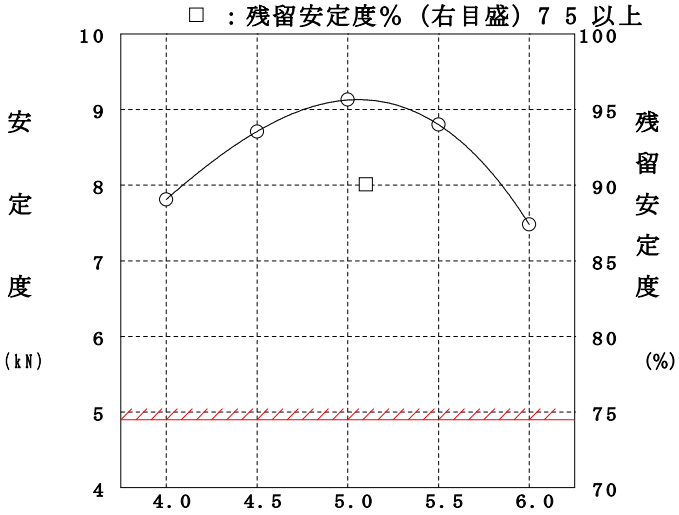
供試体条件	供試体番号	① アスファルト量 %	② 供試体寸法 厚さ（cm） 1	③ 2	④ 3	⑤ 4	⑥ 平均	⑦ 空中質量 (g)	⑧ 水中質量 (g)	⑨ 表乾質量 (g)	⑩ 容積 (cm³)	⑪ 密度 かさ (g/cm³)	⑫ 理論 (g/cm³)	⑬ 容積アスファルト (%)	⑭ 空隙率 (%)	⑮ 骨材間隙率 (%)	⑯ 飽和度 (%)	⑰ 安定度 力計の読み	⑱ 安定度 (kN)	⑲ フロー値 1/100 cm	安定/フロー (kN/m)
											⑨－⑧	⑦／⑩		①×⑪/(A)	(1－⑪/⑫)×100	⑬＋⑭	⑬/⑮×100		(B)×⑰		
標準	1	4.0	6.46	6.43	6.42	6.40	6.43	1227.2	713.2	1229.9	516.7	2.375						59	8.38	23	
	2		6.26	6.29	6.29	6.29	6.28	1226.5	716.0	1229.4	513.4	2.389						52	7.38	31	
	3		6.44	6.40	6.36	6.39	6.40	1211.4	704.7	1213.9	509.2	2.379						54	7.67	24	
	平均											2.381	2.546	9.2	6.5	15.7	58.6		7.81	26	3004
標準	4	4.5	6.34	6.34	6.37	6.31	6.34	1226.4	714.1	1228.1	514.0	2.386						62	8.80	30	
	5		6.37	6.41	6.42	6.43	6.41	1226.2	716.5	1228.1	511.6	2.397						58	8.24	24	
	6		6.31	6.38	6.32	6.39	6.35	1224.5	714.4	1226.3	511.9	2.392						64	9.09	33	
	平均											2.392	2.527	10.4	5.3	15.7	66.2		8.71	29	3003
標準	7	5.0	6.37	6.37	6.34	6.35	6.36	1236.8	724.1	1237.9	513.8	2.407						67	9.51	32	
	8		6.35	6.35	6.29	6.31	6.33	1234.9	722.6	1235.9	513.3	2.406						60	8.52	31	
	9		6.35	6.39	6.39	6.39	6.38	1236.7	723.9	1237.9	514.0	2.406						66	9.37	33	
	平均											2.406	2.508	11.6	4.1	15.7	73.9		9.13	32	2853
標準	10	5.5	6.34	6.38	6.38	6.38	6.37	1236.9	725.2	1237.6	512.4	2.414						56	7.95	36	
	11		6.45	6.42	6.37	6.40	6.41	1235.7	722.0	1236.4	514.4	2.402						69	9.80	36	
	12		6.35	6.39	6.38	6.40	6.38	1231.8	720.4	1232.4	512.0	2.406						61	8.66	42	
	平均											2.407	2.489	12.7	3.3	16.0	79.4		8.80	38	2316
標準	13	6.0	6.26	6.28	6.32	6.26	6.28	1229.6	718.3	1230.2	511.9	2.402						50	7.10	40	
	14		6.32	6.29	6.33	6.26	6.30	1229.1	717.1	1229.7	512.6	2.398						55	7.81	46	
	15		6.37	6.37	6.41	6.34	6.37	1238.0	723.9	1238.7	514.8	2.405						53	7.53	43	
	平均											2.402	2.471	13.9	2.8	16.7	83.2		7.48	43	1740

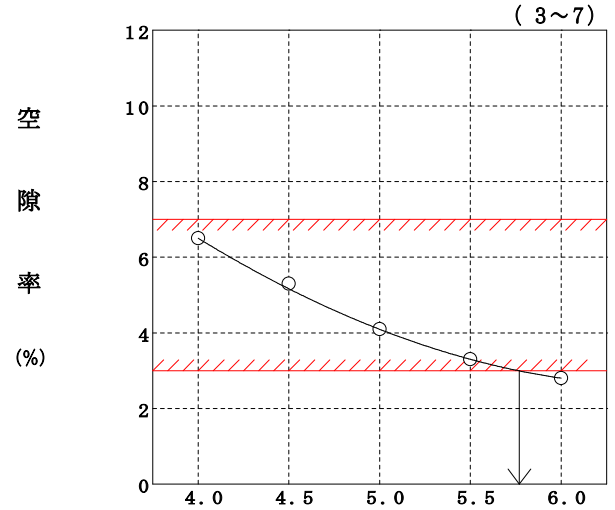
設 計 ア ス フ ァ ル ト 量 の 決 定

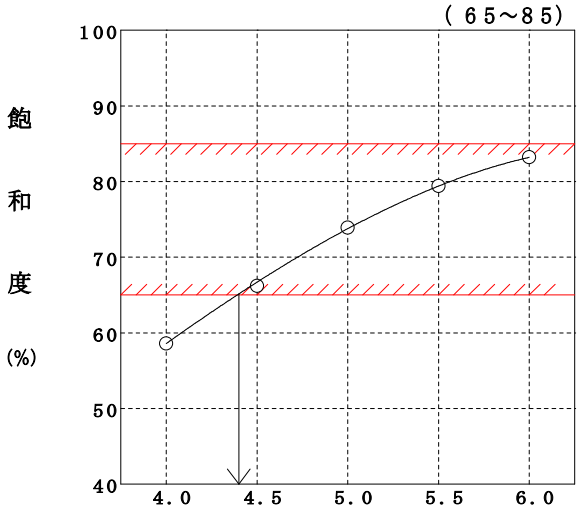
目　的　配 合 設 計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

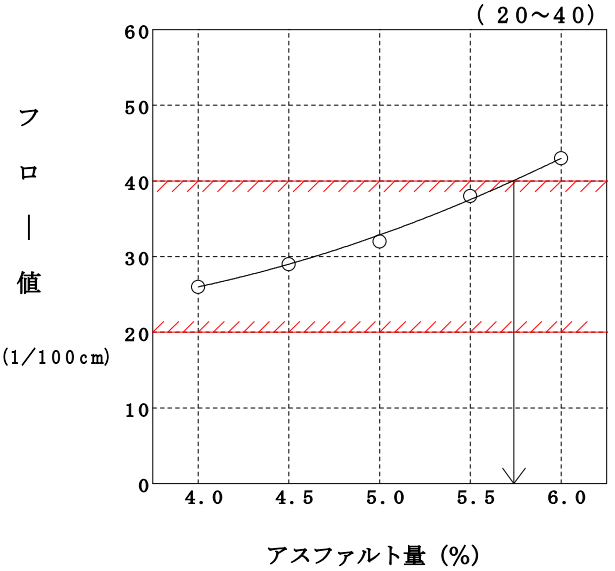
混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

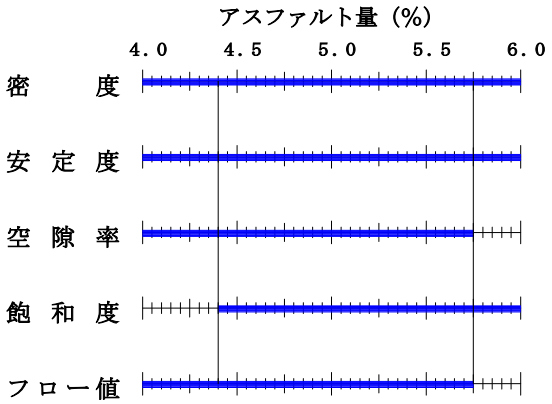












共通範囲　４．４０～５．７５　（%）

設計アスファルト量　５．１　（%）

残　留　安　定　度　試　験

目　的　配合設計

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）

試験年月日　２０２４年　４月１５日

試　験　者　田子三由生

アスファルトの種類 再生アスファルト　アスファルトの密度（A） １．０４０　アスファルトの温度 １６０ ℃　骨材の温度 ２００ ℃

突固め温度 １４０ ℃　突固め回数 ５０ 回　力計の係数（B） ０．１４２

供試体条件	供試体番号	① アスファルト量 %	② 供試体寸法 厚さ（cm） 1	③ 2	④ 3	⑤ 4	⑥ 平均	⑦ 空中質量 (g)	⑧ 水中質量 (g)	⑨ 表乾質量 (g)	⑩ 容積 (cm³)	⑪ 密度 かさ (g/cm³)	⑫ 理論 (g/cm³)	⑬ 容積 アスファルト (%)	⑭ 空隙率 (%)	⑮ 骨材間隙率 (%)	⑯ 飽和度 (%)	⑰ 安定度 力計の読み	⑱ 安定度 (kN)	⑲ フロー値 1/100 cm	残留安定度 (%)
											⑨－⑧	⑦／⑩		①×⑪／(A)	(1－⑪／⑫)×100	⑬＋⑭	⑬／⑮×100		(B)×⑰		
標準	1	5.1	6.42	6.41	6.41	6.40	6.41	1218.6	712.8	1219.7	506.9	2.404						59	8.38	35	
	2		6.34	6.34	6.33	6.35	6.34	1226.4	717.0	1227.6	510.6	2.402						71	10.08	34	
	3		6.31	6.30	6.32	6.30	6.31	1213.8	710.0	1214.7	504.7	2.405						61	8.66	34	
	平均											2.404	2.504	11.8	4.0	15.8	74.7		9.04	34	
水浸	1	5.1	6.32	6.31	6.32	6.33	6.32	1226.9	717.0	1228.0	511.0	2.401						51	7.24		
	2		6.40	6.41	6.41	6.41	6.41	1228.6	719.4	1229.6	510.2	2.408						64	9.09		
	3		6.43	6.44	6.43	6.45	6.44	1214.0	711.7	1215.2	503.5	2.411						57	8.09		
	平均											2.407	2.504	11.8	3.9	15.7	75.2		8.14		90.0
	平均																				

ホットビン粒度設計（修正後）

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

３．使用予定骨材の合成粒度　修正後

骨　材		4ビン	3ビン	2ビン	1ビン	再生骨材	回収ダスト			
配合率Ａ％		20.0	12.1	5.6	2.0	60.0	0.3			
通過質量百分率Ｂ％	53 mm									
	37.5									
	31.5									
	26.5	100.0								
	19	99.3	100.0			100.0				
	13.2	4.2	96.7	100.0		99.3				
	9.5									
	4.75		3.5	90.5	100.0	66.1				
	2.36			1.8	98.7	42.8				
	1.18									
	600 μm				47.8	33.7	100.0			
	300				28.1	23.0	95.8			
	150				4.3	11.9	82.3			
	75				1.4	9.0	71.5			

各骨材のふるい目の大きさ別配合率（Ａ）×（Ｂ）										合　成
53 mm										
37.5										
31.5										
26.5	20.0									100.0
19	19.9	12.1			60.0					99.9
13.2	0.8	11.7	5.6		59.6					80.0
9.5										
4.75		0.4	5.1	2.0	39.7					47.5
2.36			0.1	2.0	25.7					28.1
1.18										
600 μm				1.0	20.2	0.3				21.5
300				0.6	13.8	0.3				14.7
150				0.1	7.1	0.2				7.4
75				0.0	5.4	0.2				5.6

４．骨材の密度による配合率の補正

骨　材									計
①　配合率									
②　密　度									
③ ＝ ① × ②									
補正配合率 ③／計×１００									

ホットビンの粒径加積曲線図

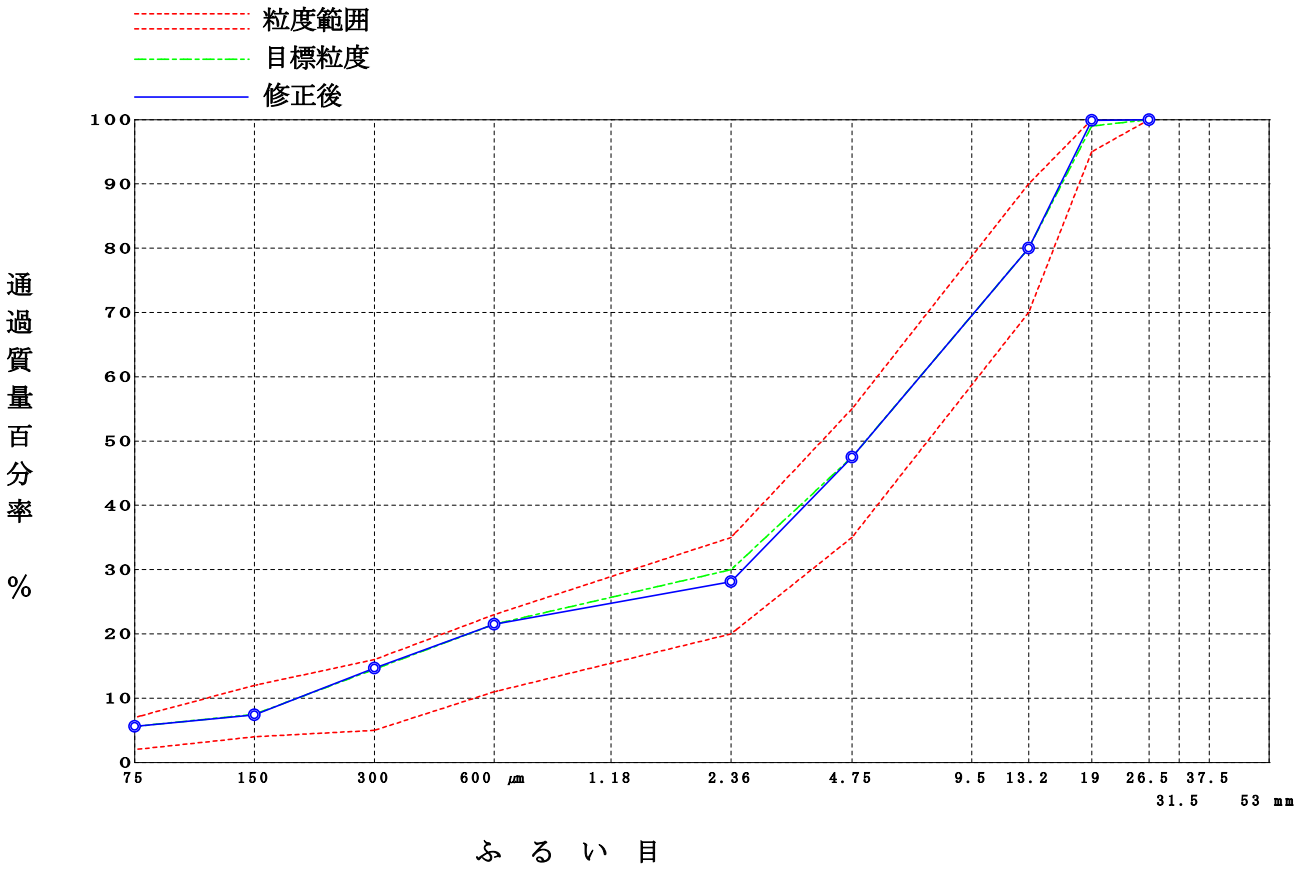
目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

５．合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
５３　ｍｍ				
３７．５				
３１．５				
２６．５	１００．０	１００．０	１００．０	１００
１９	９９．９	９９．９	９９．０	９５　～　１００
１３．２	７９．５	８０．０	８０．０	７０　～　９０
９．５				
４．７５	５０．８	４７．５	４７．５	３５　～　５５
２．３６	３０．１	２８．１	３０．０	２０　～　３５
１．１８				
６００　μｍ	２０．１	２１．５	２１．５	１１　～　２３
３００	１５．０	１４．７	１４．５	５　～　１６
１５０	８．６	７．４	７．５	４　～　１２
７５	６．９	５．６	５．６	２　～　７

６．粒径加積曲線図



理論最大密度計算表

目　的　配合設計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試験者　田子三由生

骨材の種類	A 骨材のみ	B（旧アスファルト含む）
５号砕石	２０．２	２０．２０
６号砕石	１２．９	１２．９０
７号砕石	２．８	２．８０
砕砂	４．１	４．１０
再生骨材　１３－０	６０．０	
計	１００．０	１０３．０７
設計針入度　1/10mm		
旧アスファルト量　（外割%）		３．０７
再生用添加剤量（対アスファルト量）　%		７．５０
再生用添加剤量（対再生混合物）　（外割%）		０．２７

再生アスファルト量（%）	5.1							
再生アスファルト量（外割%）	5.37							
旧アスファルト量（外割%）	3.07							
再生用添加剤量（外割%）	0.27							
新アスファルト量（外割%）	2.03							

理　論　最　大　密　度　計　算　表

目　　的　　配　合　設　計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

①	②	③			④	⑤
骨　材　の　種　類	配合率（％）	骨　材　の　密　度（g/cm³）			計算に用いる密度	②／④
		表　　乾	か　　さ	見　　掛		
５号砕石	２０．２０	２．６８７	２．６６８	２．７２０	２．７２０	７．４２６
６号砕石	１２．９０	２．６７４	２．６４９	２．７１８	２．７１８	４．７４６
７号砕石	２．８０	２．６５４	２．６１５	２．７２１	２．７２１	１．０２９
砕砂	４．１０	２．６６１	２．６２７	２．７２３	２．７２３	１．５０６
再生骨材　１３－０					２．７４０	
ＲＪ－１	０．２７				０．９２５	０．２９２
Σ②＝	４０．２７				Σ⑤＝	４０．１１６

⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
アスファルト量（％）	アスファルトの密　度	⑥／⑦	Σ⑤	⑧＋⑨	理論最大密度（Σ②＋⑥）／⑩
２．０３	１．０３３	１．９６５	４０．１１６	４２．０８１	２．５０４

マ　ー　シ　ャ　ル　安　定　度　試　験

目　的　配合設計

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）

試験年月日　２０２４年　４月１５日

試　験　者　田子三由生

アスファルトの種類 再生アスファルト　アスファルトの密度（A） １．０４０　アスファルトの温度 １６０ ℃　骨材の温度 ２００ ℃

突固め温度 １４０ ℃　突固め回数 ５０ 回　力計の係数（B） ０．１４２

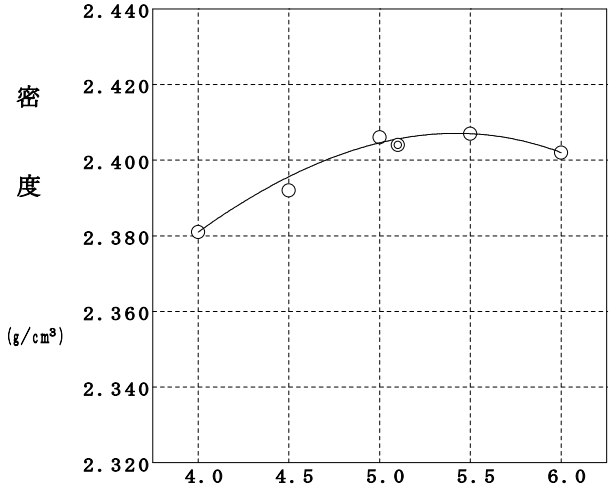
供試体条件	供試体番号	① アスファルト量 %	② 供試体寸法 厚さ（cm） 1	③ 2	④ 3	⑤ 4	⑥ 平均	⑦ 空中質量 (g)	⑧ 水中質量 (g)	⑨ 表乾質量 (g)	⑩ 容積 (cm³)	⑪ 密度 かさ (g/cm³)	⑫ 理論 (g/cm³)	⑬ 容積 アスファルト (%)	⑭ 空隙率 (%)	⑮ 骨材間隙率 (%)	⑯ 飽和度 (%)	⑰ 安定度 読み 力計の	⑱ 安定度 (kN)	⑲ フロー値 1/100 cm	残留安定度 (%)
											⑨－⑧	⑦／⑩		①×⑪/(A)	(1－⑪/⑫)×100	⑬＋⑭	⑬/⑮×100		(B)×⑰		
標準	1	5.1	6.41	6.42	6.43	6.43	6.42	1228.8	720.2	1229.7	509.5	2.412						61	8.66	31	
	2		6.41	6.40	6.40	6.41	6.41	1213.7	709.1	1214.6	505.5	2.401						65	9.23	33	
	3		6.33	6.34	6.33	6.33	6.33	1223.0	714.2	1224.0	509.8	2.399						65	9.23	39	
	平均											2.404	2.504	11.8	4.0	15.8	74.7		9.04	34	
水浸	1	5.1	6.30	6.32	6.32	6.31	6.31	1223.1	715.1	1224.3	509.2	2.402						62	8.80		
	2		6.43	6.44	6.45	6.45	6.44	1226.3	716.6	1227.1	510.5	2.402						50	7.10		
	3		6.29	6.28	6.27	6.28	6.28	1210.6	710.1	1211.6	501.5	2.414						59	8.38		
	平均											2.406	2.504	11.8	3.9	15.7	75.2		8.09		89.5
	平均																				

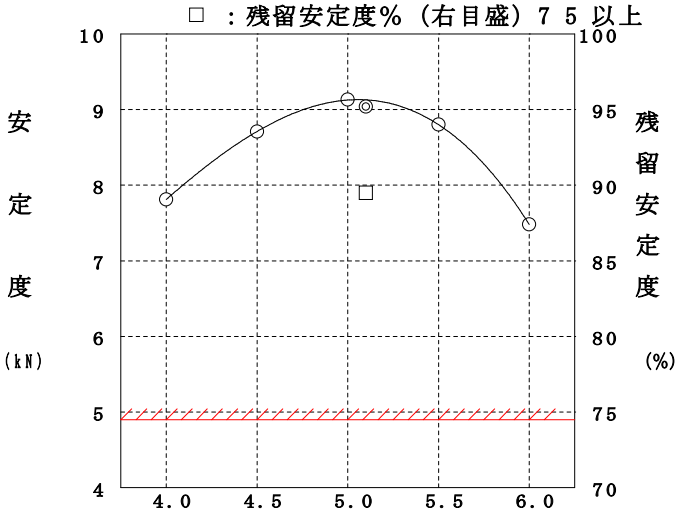
マ　ー　シ　ャ　ル　安　定　度　試　験

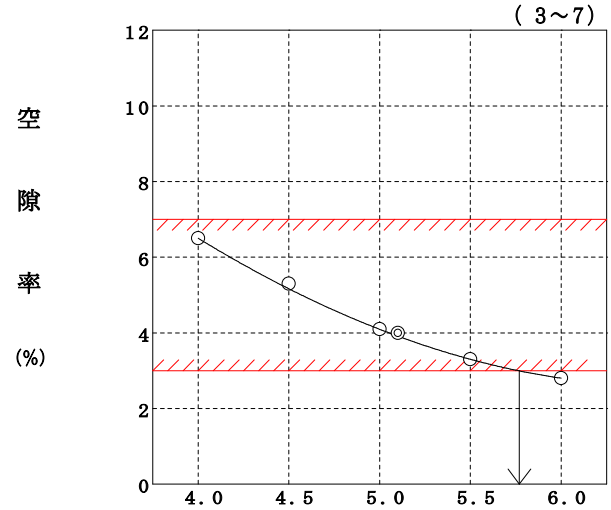
目　　的　　配　合　設　計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

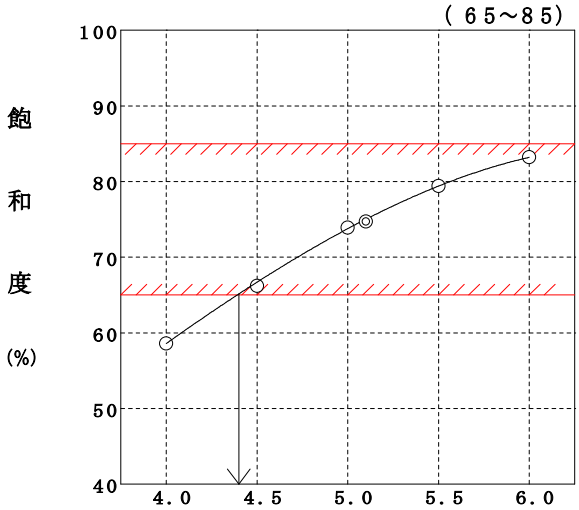
混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

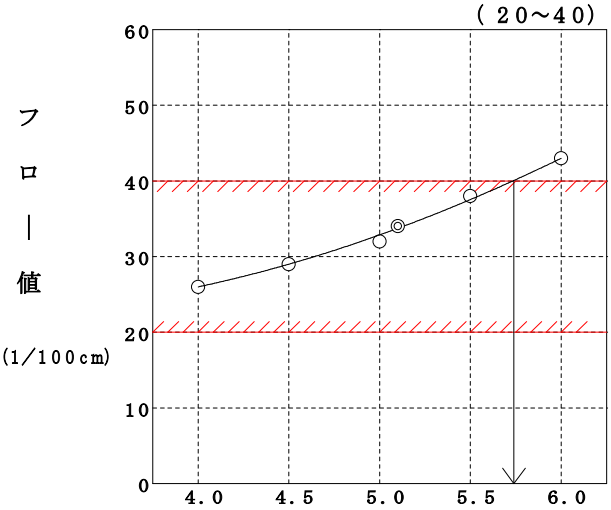
□ ：残留安定度％（右目盛）７５以上

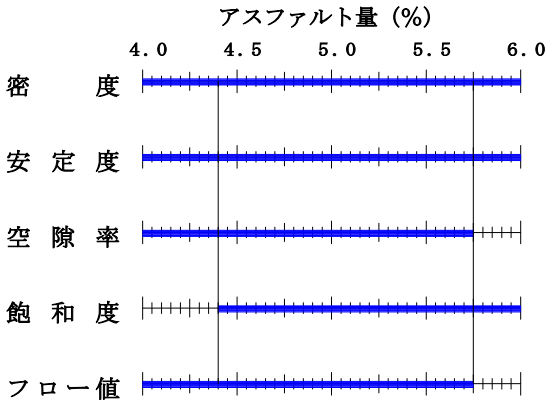












共通範囲　　４．４０～５．７５　（%）

設計アスファルト量　　５．１　（%）

現 場 配 合 の 決 定

目　的　配 合 設 計　　試験年月日　２０２４年　４月１５日

混合物の種類　再生粗粒度アスコン（２０）　　試　験　者　田子三由生

1バッチ　１０００　ｋｇ

	骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量（ｋｇ）	骨材累加質量（ｋｇ）
４　ビン	２０．０	２０．００	１８．９７	１９０	３８０
３　ビン	１２．１	１２．１０	１１．４８	１１５	１９０
２　ビン	５．３	５．３０	５．０３	５０	７５
１　ビン	２．６	２．６０	２．４７	２５	２５
再生骨材	６０．０	６３．０７	５９．８６	６０１	６０１
旧アスファルト		（　３．０７）	（　２．９１）		
再生用添加剤		０．２３	０．２２		
新アスファルト		２．０７	１．９７	１９．７	１９．７
合計	１００．０	１０５．３７	１００．００	１０００．７	１０００．７

※添加剤は再生ドライヤ内添加のため
再生材の計量値に含まれます。

（1）　混合温度・・・・・・・・・・混合温度は１８５℃を超えない範囲でアスファルトの動粘度
１５０～３００ｃＳｔ（セイボルトフロール秒７５－１５０）
のときの温度範囲から選び１６０　℃とする。

（2）　再生骨材加熱温度・・・・・・・・・加熱温度による旧アスファルトの劣化を防ぐ目的に
より１４０　℃とする。

（3）　骨材加熱温度・・・・・・・・・・混合温度より　４０　℃高くして２００　℃とする。

（4）　アスファルト加熱温度・・・・・・混合温度と同じ１６０　℃とする。

（5）　初期転圧温度・・・・・・・・・・転圧温度は再生アスファルトの性状により１４０　±　１５　℃とする。